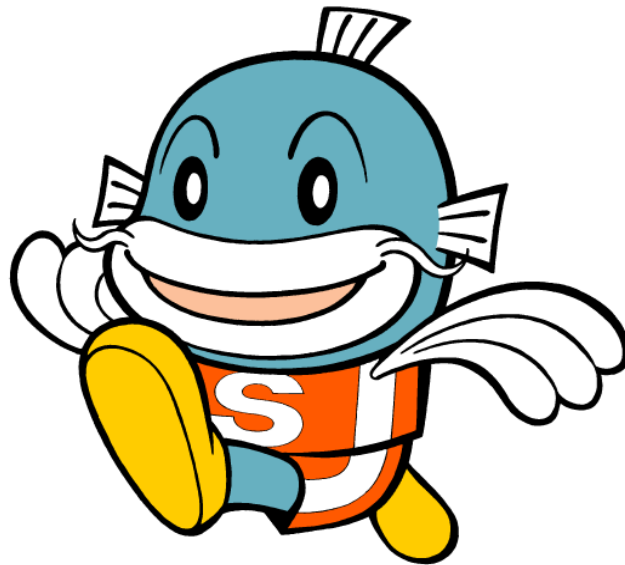


第21回全国スポーツ・レクリエーション祭

スポレク滋賀2008



「スポレク滋賀2008」実施結果について

1 祭典概要	1	
	開会式	2
	特別行事	3
	シンポジウム	4
	種目別大会	5
	閉会式	6
2 開催状況	7	
3 広報活動	12	
4 協賛事業者募集	14	
5 祭典の運営体制	14	
6 開催経費	17	
7 祭典開催の成果等	18	
8 生涯スポーツの振興に向けた今後の取り組み	22	

1 祭典概要

項目	内容																							
名称	第21回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」																							
スローガン	びわ湖から あふれる元気 きらめく笑顔																							
マスコット	キャッフィー																							
主催者	文部科学省、滋賀県、財団法人日本体育協会、財団法人日本レクリエーション協会、社団法人全国体育指導委員連合																							
会期	平成20年10月18日(土)～21日(火)																							
開催地	県内15市町																							
基本方針	<p>スポーツデザインの名のもとに、県民みんなで創り上げる祭典をめざし、国内外から集う人々と交流を深めるなかで、湖国滋賀の魅力を発掘しながら「感動スタジアム滋賀」を全国に発信し、スポーツ・レクリエーション活動の持つ真の価値を発見でき、滋賀の豊かさに発展させる祭典とする。</p>																							
参加者数	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業名</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">主催事業</td> <td>開会式</td> <td>21,014人</td> </tr> <tr> <td>特別行事</td> <td>44,539人</td> </tr> <tr> <td>シンポジウム</td> <td>3,030人 (特別行事参加者と重複する)</td> </tr> <tr> <td>種目別大会</td> <td>96,517人</td> </tr> <tr> <td>閉会式</td> <td>930人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>163,000人</td> </tr> <tr> <td>協賛事業</td> <td colspan="2">117,749人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td colspan="2">280,749人</td> </tr> </tbody> </table>		事業名		参加者数	主催事業	開会式	21,014人	特別行事	44,539人	シンポジウム	3,030人 (特別行事参加者と重複する)	種目別大会	96,517人	閉会式	930人	計	163,000人	協賛事業	117,749人		合計	280,749人	
事業名		参加者数																						
主催事業	開会式	21,014人																						
	特別行事	44,539人																						
	シンポジウム	3,030人 (特別行事参加者と重複する)																						
	種目別大会	96,517人																						
	閉会式	930人																						
	計	163,000人																						
協賛事業	117,749人																							
合計	280,749人																							

□ 開会式

(1) 日 時 平成20年10月18日(土) 12:00~14:15

(2) 会 場 希望が丘文化公園芝生ランド

(3) 参加者数 : 21,014人

オープニング



式典



開祭宣言



韓国選手団歓迎セレモニー



歓迎アトラクション



□ 開会式

(1) 日 時 平成20年10月18日(土) 12:00~14:15

(2) 会 場 希望が丘文化公園芝生ランド

(3) 参加者数 : 21,014人

オープニング



式典



開祭宣言



韓国選手団歓迎セレモニー



歓迎アトラクション



□ シンポジウム

(1) 日 時 平成20年10月19日(日) 13:00 ~ 14:30

(2) 会 場 希望が丘文化公園芝生ランド「みてよし広場」

(3) 参加者(観覧者、出演者および関係者) 3,030名

トークショー



シンポジスト



山本 博



荻原 智子



井原 正巳



太田 雄貴

特別ゲスト



嘉田 由紀子(滋賀県知事)



シンポジストによるストレッチ等の実技指導

司 会



川本 勇



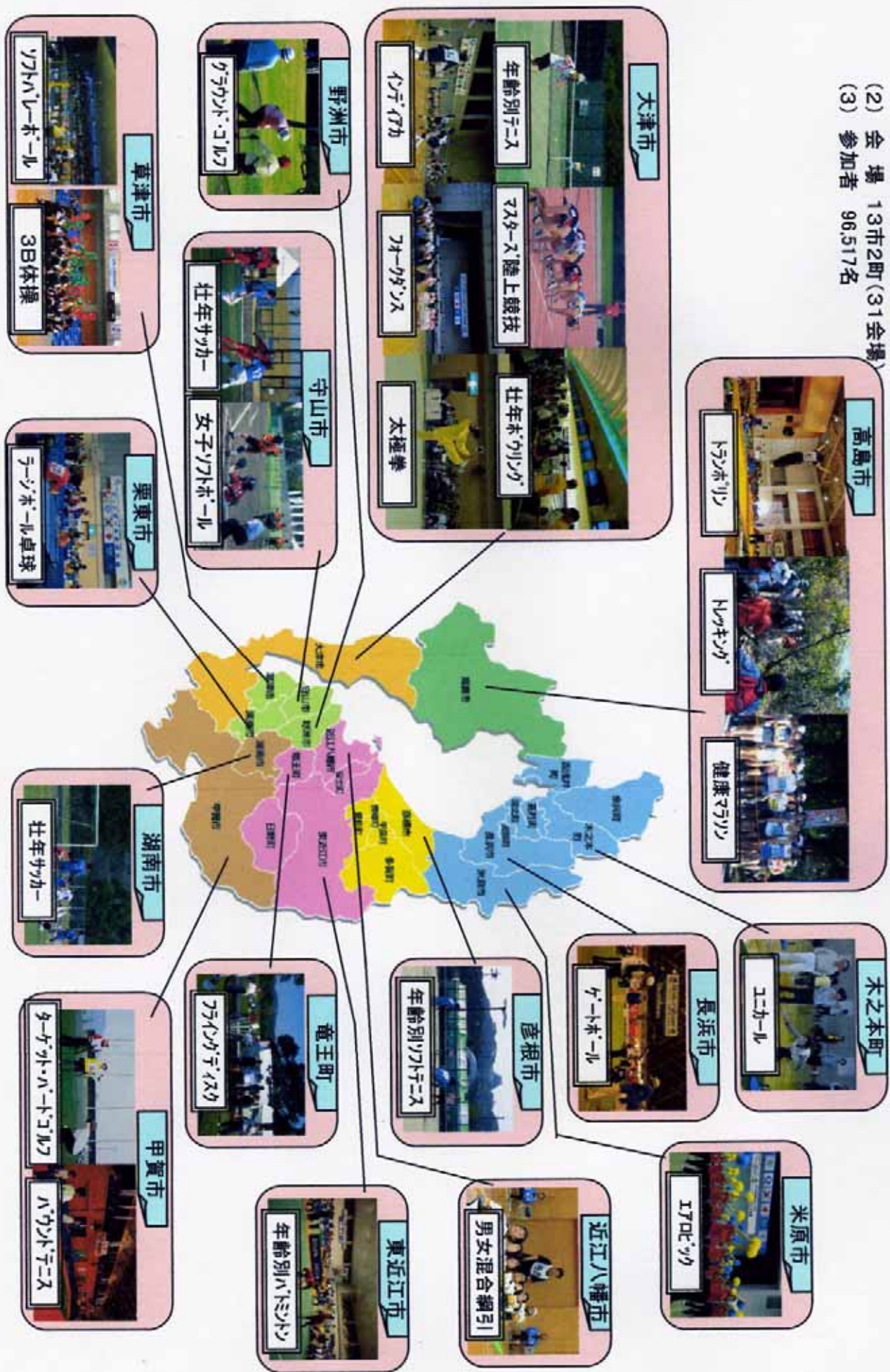
□ 種目別大会

(1) 期間 平成20年10月19日(日)～21日(火)

※ 一部フリース参加種目は、18日(土)に市民ふれあい大会等を開催

(2) 会場 13市2町(31会場)

(3) 参加者 96,517名



□ 閉会式

- (1) 日 時 平成20年10月21日(火)
- (2) 会 場 滋賀県立芸術劇場「びわ湖ホール」(中ホール)
- (3) 参加者(観覧者、出演者および関係者) 930名

オープニング



リレーステージ



交流ステージ



エンディング



2 開催状況

(1) 開会式

期 日 平成20年10月18日(土)

会 場 希望が丘文化公園「芝生ランド」

内 容

滋賀の豊かな自然を満喫いただき、歴史や伝統に生まれ、創り上げてきた文化芸術を全国に紹介し、国内外からの参加者と県民が、琵琶湖を中心とした「感動スタジアム滋賀」の幕開けにふさわしい、あたたかなふれあいや交流ができる式典を目指して滋賀にゆかりのある方々で構成する式典部会を組織し企画しました。

希望が丘文化公園の緑の芝生をざぶとんにして滋賀の自然を満喫していただきながら、式典テーマを「日本一の水 でっかい空 そしてその間に立つ人」として、オープニングから歓迎アトラクションまで「水・人・空」をイメージさせる様々な出演者が、参加者エリアをまきこんで演技をおこない、みんなが主役の参加型アトラクションを行いました。

開会式を通じて、国内外の選手・役員と県民が、笑顔あふれるなかで楽しく和やかに交流を深めるとともに、豊かな自然や歴史と伝統に培われた文化など“滋賀の魅力”を発信することができました。

区 分	内 容
オープニング	テーマ「世界は舞台だ！」 イメージソング「スタートライン」演奏 音楽とパフォーマンスによるアトラクション
式 典	選手入場（南北交互入場 代表各20名） 韓国選手団歓迎セレモニー（韓国選手団193名他） 開祭宣言（滋賀県知事） 国歌斉唱 主催者挨拶（文部科学副大臣） 歓迎の挨拶（滋賀県議会議長） 登壇者紹介 交流宣言 琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング完歩証贈呈式 登壇者降壇
アトラクション	テーマ「日本一の水 でっかい空 そしてその間に立つ人」 「水」 巨大バルーン、大布を使用して「水」イメージ 「人」 和太鼓演奏から始まる「人」の躍動を表す 「空」 全出演者で創り上げるエンディング、紙風船の飛翔 百畳敷八日市大凧の飛揚

(2) 特別行事

期 日 平成20年10月18日(土)～19日(日)

会 場 希望が丘文化公園「芝生ランド」

内 容

「発掘・発信・発見・発展」をキーワードに、会場を芝生ランド一カ所に集めて「みてよし広場」「たべてよし広場」「やってよし広場」の3つのゾーンを設営し、ピクニックコンサートなど各種ステージや誰もが取り組めるスポーツ・レクリエーション活動の体験と「滋賀のええもん」「滋賀のうまいもん」など特産品の物販や飲食により魅力あふれる“滋賀”をアピールすることができました。

ゾ ー ン	内 容
「みてよし広場」	ステージ(スポレクメインステージ・県民「夢」ステージ) 吹奏楽演奏・場内マーチング(龍谷大学吹奏楽部) 次期開催県(宮崎県)PR 郷土芸能(和太鼓集団鼓彩神) ピクニックコンサート(京都フィルハーモニー室内合奏団、びわ湖ホール声楽アンサンブル) キャラクターショー(アンパンマンショー、ストレッチマンと遊ぼう、ゆるキャラ・サポーター抽選会) 体操実演(健康ガムカムダンベル体操、yoga体験) アーティストステージ(河口恭吾、佐合井マリ子、寺尾仁志) スポレク「夢」ステージ(県民参加ステージ) ラジオ生放送 など
「たべてよし広場」	滋賀のええもん 19ブース 滋賀のうまいもん(滋賀県物産、飲食コーナー)45ブース 道の駅ふれあいフェスタ(県内14の道の駅) 次期・次々期開催県(宮崎県、富山県)PRコーナー 協賛事業者・滋賀県PRコーナー
「やってよし広場」	防災コーナー ニュースポーツ体験コーナー(20種目のニュースポーツ体験をシールラリー形式で実施) 健康フェア(骨密度・血液さらさら測定等11ブース) ワークショップ(キャフィー風、街頭紙芝居、よし笛等8ブース) 熱気球搭乗体験 ふれあい動物園 大型遊具

(3) シンポジウム

期 日 平成20年10月19日(日)

会 場 希望が丘文化公園芝生ランド「みてよし広場」「スポレクメインステージ」

内 容

生涯を通して、誰でも”PLAY”・”ENJOY”することができるスポーツ・レクリエーションの魅力の数多くの人に伝えることができる内容とし、地域に根ざしたスポーツ・レクリエーションの普及、振興に向けた契機とすることができました。

区 分	内 容
シンポジウム	テーマ 「スポーツを生活に！」 コーディネーター 川本 勇(ミュージシャン)
【第1部】 トークショー	シンポジスト 山本 博 (アーチェリー) 萩原 智子 (水泳)
【第2部】 シンポジストによるストレッチ 等の実技指導	井原 正巳 (サッカー) 太田 雄貴 (フェンシング) 特別ゲスト 嘉田 由紀子(滋賀県知事)

(4) 種目別大会

期 日 平成20年10月19日(日)～21日(火)

会 場 県内13市2町

種 目

・都道府県代表参加種目 18種目

・フリー参加種目 6種目

内 容

各会場で種目別大会が繰り広げられるとともに、「おもてなしの心」を大切にした会場地市町の交流行事を通じて、選手と県民とのふれあいが数多く生まれ、スポーツ・レクリエーションの楽しさを感じていただきました。

また、「子どもの参画事業」として地元の子どもたちと国内外からの選手・役員との交流に取り組み、多世代交流や国際交流が進みました。

参加状況

【都道府県代表参加種目】

種 目 名	期 日	会 場 地	総 数	県 内	県 外	韓 国
グラウンド・ゴルフ	19日(日)～20日(月)	野洲市	506人	80人	426人	
ゲートボール	19日(日)～20日(月)	長浜市	580人	59人	503人	18人
壮年サッカー	19日(日)～21日(火)	守山市 湖南市	850人	36人	796人	18人
ソフトバレーボール	19日(日)～21日(火)	草津市	407人	59人	330人	18人
女子ソフトボール	19日(日)～21日(火)	守山市	647人	90人	557人	
ラージボール卓球	19日(日)～21日(火)	栗東市	324人	28人	280人	16人
ターゲット・バードゴルフ	19日(日)～20日(月)	甲賀市	186人	16人	170人	
男女混合綱引	19日(日)～20日(月)	近江八幡市	491人	90人	389人	12人
年齢別テニス	19日(日)～20日(月)	大津市	324人	37人	269人	18人
年齢別ソフトテニス	19日(日)～21日(火)	彦根市	318人	12人	288人	18人
バウンドテニス	19日(日)～20日(月)	甲賀市	299人	6人	293人	
年齢別バドミントン	19日(日)～21日(火)	東近江市	324人	22人	284人	18人
壮年ボウリング	19日(日)～21日(火)	大津市	213人	8人	195人	10人
マスターズ陸上競技	19日(日)～21日(火)	大津市	849人	80人	745人	24人
インディアカ	19日(日)～20日(月)	大津市	426人	37人	389人	
フォークダンス	19日(日)～20日(月)	大津市	398人	40人	358人	
エアロビック	19日(日)～20日(月)	米原市	206人	38人	152人	16人
トランポリン	19日(日)～20日(月)	高島市	266人	31人	235人	
都道府県本部役員			236人	6人	223人	7人
計			7,850人	775人	6,882人	193人

【フリー参加種目】

種 目 名	期 日	会 場 地	総 数	県 内	県 外
太極拳	19日(日)	大津市	70人	4人	66人
3B体操	19日(日)	草津市	2,100人	1,044人	1,056人
トレッキング	20日(月)	高島市	43人	30人	13人
健康マラソン	19日(日)	高島市	1,995人	1,095人	900人
フライングディスク	19日(日)	竜王町	72人	25人	47人
ユニカール	19日(日)	木之本町	311人	90人	221人
計			4,591人	2,288人	2,303人

【合計】

	総 数	県 内	県 外	韓 国
人 数	12,441人	3,063人	9,185人	193人
構成比	100.0%	24.6%	73.8%	1.6%

(5) 閉会式

期 日 平成20年10月21日(火)

会 場 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール「中ホール」

内 容

4日間の祭典を振り返り、参加者全員で共有した祭典の感動と祭典旗を次期開催県に引き継ぐとともに、祭典において育まれた友情の輪をさらに広げることができました。

区 分	内 容
オープニング	映像による祭典報告 オープニング演出 (びわ湖ホール声楽アンサンブル、琵琶湖よし笛レイクリード)
リリースステージ	滋賀県知事挨拶 祭典旗リレー 宮崎県副知事挨拶
交流ステージ	宮崎県ステージ スポレク大使・マスコット「ザッキー」によるPR 映像による宮崎県知事PR 滋賀県ステージ ござれGO-SHU 江州音頭 こうかさすけくらぶ忍 滋賀県江州音頭普及会 エンディング(琵琶湖周航の歌)びわ湖ホール声楽アンサンブル 琵琶湖よし笛レイクリード 高島市立今津中学校3年生

(6) 協賛事業

期 日 平成20年4月6日(日)～10月26日(日)

会 場 県内26市町

事業数 122事業

内 容

県内全域の市町で、各市町や種目団体等が主催した122事業に、11万人を超える県民等が参加し、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさを体験するとともに、県民の祭典への参加機会を拡大し「スポレク滋賀2008」の県民総ぐるみによる開催機運を醸成しました。

(7) その他の事業

子どもの参画事業

滋賀県らしさを出す取り組みとして、種目別大会の期間中に地元の園児や児童・生徒たちが、全国からの参加選手や韓国選手と種目の体験や交流を深めました。

びわ湖ふれあい事業

「県民との協働」により、県民総参加の気運を盛り上げ、琵琶湖を中心とした魅力あふれる“滋賀”を広く全国に紹介することを目的として「琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング」をはじめとして5種類の事業に取り組みました。

(8) 国際交流の推進

日韓スポーツ交流事業として第12回成人交歓交流事業11種目193名を受け入れました。

3 広報活動

(1) プレイベントを含む県内外での広報活動の展開 プレイベント

実施日	名称	会場
平成19年 5月20日(日)	開催500日前イベント	希望が丘文化公園 (7,000人)
平成19年10月20日(土)	開催1年前イベント	希望が丘文化公園 (9,500人)
平成20年 5月10日(日)	開催150日前イベント	希望が丘文化公園 (900人)

PRイベント

実施日	名称	会場
平成19年10月	幼稚園キャラバン	主会場近隣幼稚園25園訪問
平成20年 3月29日(土)	スポレク滋賀南北宣伝会議	大津パルコ (2,000人)
平成20年 9月15日(月)	スポレク滋賀南北宣伝会議	ピバシティ彦根 (3,000人)

「びわ湖ふれあい事業」

事業名	実施日	主催者(会場)
琵琶湖一周 スポレク健康ウォーキング	平成19年 6月3日(土) ~ 平成20年9月13日(日) 全14回	大津港(大津市)~10市5町を經由 琵琶湖岸(近江大橋以北)を一周
琵琶湖一周サイクリング	平成20年 5月 4日(日)~ 6日(火)	滋賀県バイコロジーをすすめる会
	平成20年10月10日(金)~11日(土)	高島市立安曇川中学校2年生
琵琶湖横断カヌーの旅	平成20年 5月20日(日)~21日(火)	高島市立マキノ東小学校5・6年生
	平成20年 9月 5日(金)~ 6日(土)	高島市立今津中学校2年生
ドラゴンボート大会	平成20年9月21日(日)10月18日(土)	滋賀県ドラゴンボート協会
OVER35全国フットサル選手権大会他	平成20年10月18日(土)~21日(火)	滋賀県フットサル連盟

(2) マスメディア等による広報

項目	内容
新聞	滋賀版やタブロイド版で種目紹介の特集やプレイベント等情報の掲載 祭典案内および開催直前広告を掲載
テレビ・ラジオ	祭典PR番組や種目の紹介、開催告知番組を放送
	地元民間テレビ局に祭典開催の告知・種目紹介スポットCMを委託し放映

(3) インターネットおよびブログの活用

「スポレク滋賀2008」公式ホームページにおいて種目別大会関係の会場・種目紹介の情報を提供するとともに祭典マスコットが活躍するキャプチャー日記によりキャンペーン事業の予告と報告をしました。また、運営ボランティアや開会式会場への優先入場者の募集も行いました。

祭典開催前後を通じて実施計画、スポレク種目紹介や種目別大会の記録報告へのアクセス数が多く開催種目の普及に有効であったと考えられます。また、マスコットを使用したキャンペーンが多くの人の関心を集め「スポレク滋賀2008」の周知に有効であったことが読み取れます。

ホームページの総アクセス数 642,079件

(平成19年4月～平成20年12月)

ブログータルサイトにおいて「スポレクサポーター」の交流の場を設定し平成20年2月～開催までに6万件を超えるアクセスがあり新しい広報ツールとして有効であることが確認されました。

(4) 広告物等による広報

種 類	内 容
広 告 物	広報用看板等（希望が丘文化公園、各県立スポーツ・文化施設、各地域振興局、各会場地市町庁舎、各種目別大会会場施設等） 広報用のぼり旗、懸垂幕、横断幕（会場地市町庁舎、体育施設） 車両用ステッカー（県内バス、トラック、県・会場地市町公用車等）
歓 迎 装 飾	歓迎のぼり旗（主会場および周辺道路、種目別大会会場、主要インター出口） 歓迎バナー（JR大津駅、JR野洲駅、JR米原駅） 歓迎看板、プラントー（JR野洲駅前、JR野洲駅前歩道）
広 告 塔	滋賀会館前三角塔、長浜ドーム前広告塔

(5) マスコットによる広報

スポレク出前キャンペーンとして、県内の保・幼・小・中・高・子ども会への訪問や会場地市町・種目団体が実施するイベント等において「キャッフィー」の認知度を向上させ「スポレク滋賀2008」の認知向上を図りました。

キャッフィーの着ぐるみ出動回数

	期 間	回数	合計
全国スポレク祭推進室(2体)	平成19年4月～平成20年10月	388回	865回
会場地市町実行委員会(12体)	平成20年4月～平成20年10月	477回	

4 協賛事業者等の募集

第21回全国スポーツ・レクリエーション祭の趣旨に賛同し、協賛いただける事業者を県内外で募集し、24事業者と多くの個人から協賛していただきました。

区 分	事業者数	金 額(円)
協 賛 金	15	30,400,000円
物 品 協 賛	9	13,822,000円
個人協賛等		821,827円
計		45,043,827円

物品協賛は、金額換算したものの

5 祭典の運営体制

(1) 県実施本部の設置及び運営

開催年の年度当初の平成20年4月15日に教育委員会を担任する副知事を本部長とする滋賀県実施本部を設置し、開会式等の運営を行いました。

実施本部員会議の開催

第1回実施本部員会議 平成20年4月15日(火)

第2回実施本部員会議 平成20年7月22日(火)

第3回実施本部員会議 平成20年9月9日(火)

部長・班長会議の開催

開催日 平成20年9月8日(月)

内 容 実施運営計画書(共通、各班別業務内容)について

実施本部班員(県職員)研修会・説明会の実施

開催日 平成20年9月30日(火)・10月1日(水)

内 容 接遇研修、実施運営計画書(共通、各班別業務内容)について

運営ボランティア研修会、説明会の実施

開催日 平成20年9月14日(日) 県庁東館大会議室

内 容 接遇研修等

開催日 平成20年10月12日(日) 希望が丘文化公園

内 容 各班別業務内容説明、現地確認、会場装飾準備等

開催可否等判定会議の開催

第1回判定会議 平成20年10月15日(水)

第2回判定会議 平成20年10月17日(金)

県実施本部班員・県民ボランティア活動状況

	本部 員数	活動状況（人数）							計
		11日	12日	17日	18日	19日	20日	21日	
県実施本部班員(県職員)	398	19	19	21	348	122	29	63	621
県民ボランティア	395	0	0	0	395	126	0	0	521
計	793	19	19	21	743	248	29	63	1,142

(2) ボランティアとの協働

スポレクサポーター（広報ボランティア）

登録した67名が準備事業から広報活動、プレイベント等の参加とともに、祭典当日は自主的な企画・運営を行いました。

活動内容	実施状況
サポーターの会	10回開催
各種イベントでのPR参加	67回実施
式典、特別行事	式典アトラクション（オープニング） 「みてよし広場」県民ステージ出演、抽選会 「たべてよし広場」サポーターブース運営

イベントプランニングボランティア

特別行事会場において5団体31名がスポーツやレクリエーションにかかわる内容や来場者とふれあい楽しめるコーナー等を自分たちの力でプロデュースしワークショップ等の運営を行いました、

運営ボランティア

祭典当日のみの活動ボランティア395名が、県実施本部班員として祭典の運営に従事しました。

(3) トラベルセンターの設置

平成20年4月1日にトラベルセンターを設置し、祭典参加者の配宿、昼食弁当の斡旋業務を行いました。

配宿斡旋数（延べ）	14,844泊
弁当斡旋数（延べ）	24,912個

(4) 輸送交通

計画バスおよびシャトルバス等の運行

選手・監督等を対象に宿泊施設と開会式会場や種目別大会会場との間を輸送する計画バスを延べ342台、一般観覧者や選手・監督等を対象に野洲駅（野洲市役所）希望が丘臨時駐車場（竜王町山面）と開会式・特別行事会場の間を輸送するシャトルバスを延べ89台、開会式・特別行事および閉会式の出演団体等を輸送するバスを66台運行しました。

駐車場対策

開会式・特別行事の来場者の駐車場として、希望が丘文化公園内の駐車場（乗用車1,355台、バス200台、トラック30台）および竜王町山面に臨時駐車場（乗用車2,500台）を確保しました。

交通対策

祭典参加者の交通安全および会場周辺の交通混雑の緩和と駐車場の確保を図るため、会場内および周辺道路、JR野洲駅周辺に実施本部員および警備員を配置するとともに、守山警察署の協力を得て交通規制および誘導を行いました。

案内所の設置

祭典参加者に各種案内を行うためシャトルバス乗降所のJR野洲駅前および希望が丘文化公園内2カ所に案内所を設置しました。

(5) 医療救護・衛生

救護体制

祭典における傷病発生に対処するため県医師会、会場地医師会、県看護協会、会場地消防本部等の協力を得ながら祭典期間中の医療救護体制を整備しました。

救護所

開会式会場および特別行事会場については県実行委員会が、種目別大会会場については会場地市町実行委員会が医師・看護師等を配置した救護所を設置し、傷病者に対して応急処置を行い、必要に応じて傷病者を医療機関へ搬送しました。

（救護所取扱患者数 開会式・特別行事会場29名、種目別大会会場224名うち26名を医療機関へ搬送）

AEDの携帯による会場内巡察

希望が丘文化公園開会式会場および特別行事会では、湖南広域消防本部職員がボランティアとして常時3台のAEDを携帯し会場内を巡回しました。

衛生対策

食品衛生対策については、食中毒の未然防止に重点を置き、県生活衛生課、県食品安全監視センター、県内各保健所、会場地市町実行委員会等の協力を得て施設の点検、衛生指導を行いました。

宿泊施設の環境衛生については、県生活衛生課、県食品安全監視センター、県内各保健所等の協力を得て施設・設備の点検および宿舍の衛生指導を行いました。

(6) 防災警備安全

防災体制

火災その他の災害を未然に防止するとともに、災害が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、各地区消防本部の協力を得て防災体制を整備しました。

警備体制

会場内における祭典参加者および一般来場者の安全の確保と、事件・事故の未然防止のため、所轄の警察署の協力を得て、警備体制を整備しました。

6 開催経費（県実行委員会）

（単位：千円）

歳入	平成18年度 （決算）	平成19年度 （決算）	平成20年度 （決算見込）	合計
国庫補助金			138,150	138,150
県負担金	17,000	75,707	224,472	317,269
協賛金		1,563	31,222	32,785
参加料			7,428	7,428
参加料（ウォーク）		1,095	95	1,190
寄付金	459			459
雑収入	1	6	32	39
合計	17,460	78,461	401,399	497,320

歳出	平成18年度 （決算）	平成19年度 （決算）	平成20年度 （決算見込）	合計
総務企画費	17,460	15,951	38,384	497,320
広報費		31,676	21,275	
式典費		6,389	119,554	
種目交流費		23,507	133,172	
宿泊輸送費		938	89,014	
	17,460	78,461	401,399	497,320

7 祭典開催の成果等

(1)主催事業

事業名	取組内容	成果
開会式	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに例のないまわりの自然と一体となった緑の山を借景に開放感あふれる希望が丘文化公園芝生ランドで式典を実施した。 ・芝生をじゅうたんに、参加者が直に腰を下ろし、自然とふれあうスタイルで実施した。 ・来場者一人ひとりが主役になる参加型アトラクションを実施した。 ・滋賀県ならではの素材を掘り起こしアトラクションを実施した。 ・青空の中に白いハト風船が羽ばたくなど、開放的な演出が実施できた。 ・韓国選手団の紹介をステージ上で行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの祭典にふさわしく、参加者全員が一堂に会する開会式になった。 ・環境こだわり県らしく、自然との共生を感じられるものとなった。 ・参加者の笑顔と感動にあふれる式典になった。 ・百畳敷き八日市大凧や和太鼓など滋賀県の伝統文化も全国に発信できた。 ・これまでにない開放的な空間を生かした演出により、心に残る式典となった。 ・来場者一人ひとりが主役となる参加型式典とすることができた。
特別行事	<ul style="list-style-type: none"> ・三つ(みてよし・たべてよし・やってよし)の広場を設営し、二日間にわたり両日とも集客2万人を目標とした。 ・みてよし広場では、ステージを2箇所設営し、県民が参加できるステージとピクニック気分を楽しめるステージプログラムを組んだ。 ・たべてよし広場では、「滋賀のええもん」「滋賀のうまいもん」と称して滋賀の特産を発掘・発信した。 ・やってよし広場では、ニュースポーツを20種目体験できるコーナーを設置。また、催事として熱気球体験搭乗やふれあい動物園を開催した。 ・特別行事会場を全てが視野に入る芝生ランド1箇所に集めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発掘・発信・発見・発展」をキーワードとしての特別行事であったが、滋賀のよさ、滋賀のおもてなしを提供できた。 ・参加体験型をどのブースにおいても意識した取り組みを展開でき、出展者にとっても笑顔溢れる祭典となった。 ・従前にはないピクニックコンサート等クオリティの高いステージを気軽に楽しめるように提供するとともに、会場全体をステージにしたマーチングバンドの行進、チンドン屋など出演者とふれあえる演出が好評を得た。 ・現代美術家とのライブペインティングでは、見るだけでなく参加する喜びを感じてもらえた。 ・各日とも1万人以上の体験者があり、多くの方に生涯スポーツへの関心を喚起することができた。 ・二日間幅広く、重複のないブースを展開することができた。 ・多数の参加者があり各日とも目標とする集客、誘客2万人を突破することができた。

事業名	内 容	成 果
シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭典期間中、主会場で開催した。 ・ 北京オリンピック直後であるためオリンピックの選考、滋賀に縁のある人選、参加体験型のシンポジウムの開催を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主会場で開催したことにより3,000人という多くの参加者と一体となったシンポジウムが開催された。 ・ 4人のシンポジストと特別ゲストの幅広い人選が好評であった。 ・ 「スポーツを生活に！」というテーマに沿ったシンポジウムとなり、多くの方に生涯スポーツへの関心を高めることができた。 ・ シンポジストがストレッチを指導するなど参加体験型という親しみやすい内容で笑顔あふれるシンポジウムとなった。
種目別大会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内13市2町で、都道府県代表参加種目18種目およびフリー参加種目6種目の計24種目を実施した。 ・ 各会場に参加者等が交流できる広場を設け、おもてなしや特産品の販売等を行った。 ・ 「子どもの参画事業」として会場地市町において、地元の子どもたちが県内外・韓国からの選手と当該種目や 様々な場面で交流する事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場地市町と種目団体が協力し、全国大会を開催することで、各種目の普及と組織力の強化が進んだ。 ・ 種目別大会に幅広い参加者が集まった。 ・ 参加者同士また参加者と県民の交流が深められ、各地域の特色や物産をPRにより“滋賀の魅力”を発信することができた。 ・ 種目別大会に幅広い年齢層の参加者が集まった。 ・ 子どもたちの体験活動として生涯スポーツへの関心が高まり、多世代間交流が深まった。 ・ 韓国選手団との交流が深まり、子どもたちの国際交流体験の場ともなった。
閉会式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期開催県の宮崎県に祭典旗を引き継ぐとともに、本県と宮崎県の交流ステージを実施した。 ・ 滋賀県らしく「琵琶湖周航の歌」の大合唱でフィナーレとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数多くの県内外からの祭典参加者の出席を得て本祭典の感動を共有するとともに、祭典で得た友情の輪をさらに広げることができた。

(2)協賛事業

事業名	内 容	成 果
協 賛 事 業	・「スポレク滋賀2008」の開催を機に県民の参加機会の拡大および県民総ぐるみによる開催気運の醸成を図るため県内全26市町において122事業を実施した。	・県内全市町で開催することができ多数の参加があり、県民に祭典開催を幅広く周知することができた。 ・全国大会や近畿ブロック大会として実施した事業もあり、県外へも祭典をPRできた。

(3)その他の事業

事業名	内 容	成 果
子 ども の 参 画 事 業	・種目別大会における子どもたちの参加を目指し会場地市町において地元の子もたちやPTA活動、地域活動を中心に種目の体験教室や親子活動を実施した。	・子どもたちが種目の体験をとおして体力づくりの機会となった。 ・PTA活動等を通して親子のふれあいが深まり、生涯スポーツへの関心が高まるなかで種目別大会への参加者が増加した。 ・学校と種目団体、行政の交流が深まり連携が強化された。
びわ湖 ふれあ い事業	・広報キャンペーンイベントとして「琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング」など琵琶湖の魅力を発信し、スポレクの真の価値を発見する参加型・体験型の事業を行った。	・関係市町等と連携し祭典の開催を幅広くPRできた。 ・スポーツ・レクリエーション活動への参加者が増加した。 ・県内外の方に琵琶湖の魅力を新たに発見してもらい、“琵琶湖のファン”が増加し水質保全、湖岸清掃など環境への関心も高まった。

(4)国際交流の推進

日韓スポーツ交流事業として、第12回成人交歓交流事業の選手・役員193名が、都道府県代表参加種目のうち11種目（ゲートボール、壮年サッカー、ソフトバレーボール、ラージボール卓球、男女混合綱引、年齢別テニス、年齢別ソフトテニス、年齢別バドミントン、壮年ボウリング、マスターズ陸上競技、エアロビック）に参加し、県内各地で参加選手や地域の方々との交流が深められました。

(5)経済波及効果（推計）

参加者アンケートのデータをもとに、積算したところ、第一次波及効果において約22億円、さらに発生する第2次波及効果では約30億円と推計されます。

（単位：千円）

		運 営 費 (県 + 市 町)	サ ー ビ ス (宿 泊)	商 業 (土 産)	運 輸 (交 通 費)
直接効果 (A)		492,631	421,972	590,044	342,132
		上記合計 1,846,779			
間接効果	(一 次 波 及) (B)	85,176	91,493	140,470	132,102
一次波及における総合効果 (C) = (A) + (B) (生 産 波 及 倍 率)		577,807 (1 . 1 7)	513,465 (1 . 2 1)	730,514 (1 . 2 3)	474,234 (1 . 3 8)
		上記合計 2,296,020			
間接効果	(2 次 波 及) (D)	775,846			
二次波及における総合効果 (E) = (C) + (D) (生 産 波 及 倍 率) (E) / (A)		3,071,866 (1 . 6 6)			

8 生涯スポーツの振興に向けた今後の取り組み

(1) 県の取り組み

県民総スポーツの祭典

滋賀県では、「日本スポーツマスターズ2007びわこ大会」、第21回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」という全国規模の大会を2年連続開催し、県民に生涯スポーツの気運が高まりました。

また、「滋賀のスポーツデザイン2010（滋賀県スポーツ振興計画）」の中に、スポーツを通じて県民の健康づくり活動の推進を図るとともに、県民相互や県民と国内外の人との交流が促進されるイベントや大会などを開催することとしています。

これらを踏まえて、県民への生涯スポーツの定着を図るために平成21年度より「県民総スポーツの祭典」を開催します。

この祭典は、市町や競技団体・種目団体等との連携を図り、これまで開催してきた滋賀県民体育大会に加え、スポーツ・レクリエーション種目、レクリエーション種目等を統合するなど県民総参加型の県民総合スポーツ大会として位置づけ、その普及発展とスポーツ意識の高揚を図り子どもから高齢者まで幅広い県民の健康、明朗にして活力豊かな生活に寄与することを目的としています。

子どもの参画事業

種目別大会の開催に向け取り組んだ「子どもの参画事業」において市町生涯スポーツ担当者、種目指導者、体育指導委員等の間に円滑な協力態勢ができ、地域の子どもたちがスポーツに親しみ、様々な人たちとふれあえる機会が積極的に創造されました。

この実績を、今後の、子どもたちのスポーツに親しむ機会の活性化につなげるため、次のことに取り組みます。

ア 多くの種目指導者に県体育協会広域スポーツセンターが運営する「スポーツ指導者NETしが」への登録を呼びかけ、スポーツ指導者と学校や地域活動、PTA活動、総合型地域スポーツクラブとの連携をスムーズにします。

イ 市町生涯スポーツ担当者との連携により各市町が保有するニュースポーツ等の用具状況を把握し県下全域の情報を共有化するネットワークを構築します。

また、その情報を県体育協会のホームページで紹介することにより各種団体の活動を活性化させます。

琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング

広報キャンペーンイベントとして実施した「琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング」は、非常に人気が高く、スポーツと健康の融合、環境保全の意識高揚、観光の振興等さまざまな効果があることを幅広い分野から認知され、今後は、本県の「新観光振興計画」の中に方向性を位置づけ、琵琶湖一周ウォーキングの認定制度や記念イベントの実施を検討しています。

マスコットの取扱

祭典マスコット「キャプフィー」については、県民からの人気が高くアンケートの調査結果などで、祭典終了後も活躍を期待する声が多いことから、新たに滋賀県のイメージキャラクターとして位置づけ、スポーツ振興を中心により幅広く活用することとします。

また、祭典開催にむけ各会場地市町で積極的にマスコットを使用した広報活動が有効であったことから、今後もマスコット10体を、県下の地域性を考慮したうえで市町に譲渡し積極的に生涯スポーツの振興に向けた活用を図ります。

(2) 市町の取り組み

祭典に向け新規に大会を開催した市町では、「スポレク祭記念大会(仮称)」として継続した開催を計画し、会場地として築き上げた種目団体との連携を生かし地域に根付いたスポーツ・レクリエーション活動の振興を図ろうとしています。

近江八幡市	「綱引き記念大会」
東近江市	「東近江オープンバドミントン交流大会」
高島市	トランポリン練習会 「高島トレイル」でのトレッキング事業の継続 「健康栗マラソン」
木之本町	地元県立高校でのユニカールを取り入れるた体育授業
竜王町	フライングディスクのスポレク滋賀記念大会の実施

(3) 種目団体の取り組み

県内の種目団体においては、祭典を契機に、指導者等の講習会および一般県民等を対象とした教室・講習会の開催回数を増加させ普及啓発活動が活性化しました。それら種目の認知度が上がるなど県民のスポーツ・レクリエーションに対する関心が高まったことを生かし男女混合綱引、トランポリンなどでは教室等を継続して実施する計画が立てられています。

また、ソフトバレーボール、男女混合綱引、太極拳、3B体操、フライングディスク、ユニカール等では、「子どもの参画事業」の推進で培った地域の校・園、総合型地域スポーツクラブ、公民館活動等との連携を生かし、子どもたちに対する普及啓発活動を継続しようとする積極的な取り組みを計画しています。

(4) ボランティア

祭典は、スポレクサポーターをはじめ多くのボランティアの方々に支えていただきました。また、ボランティア参加者も、その活動や祭典の参加者との交流を通じて、達成感、充実感などの感動や経験等を得ることができました。

そのような祭典で得た感動や経験などを生かし、スポレクサポーターの経験者が2009年近畿高校総体(まほろば総体)県内開催種目のボランティア活動に参加するなど、今後も活動の継続と参加者の拡大が期待されます。

「スポレク滋賀 2008」開催記念オブジェの設置およびキャッフィーカーの今後の活用について

1 オブジェ

「スポレク滋賀 2008」の祭典のために制作しましたオブジェ 5 基を、開会式会場である希望が丘文化公園の陸上競技場前とフィールドアスレチックに、祭典記念オブジェとして設置しました。



フィールドアスレチック前

オブジェは、平成 20 年 10 月 18 日から開催された第 21 回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀 2008」の開会式で式典テーマを象徴するものとして使用されました。式典テーマ「日本一の水、でっかい空、そしてその間に立つ人」をイメージして、造形作家の岩野勝人（いわのまさひと）さん（大阪成蹊大学准教授）に制作を依頼しました。滋賀県希望が丘文化公園の豊かな自然に共鳴され、自然素材である藤の葛（かずら）

などを使って、テーマである「水：青色」「人：赤色」「空：白色」（右図）、そしてゲートとして2本の「手」（上図）のオブジェを制作されました。



陸上競技場前

2 キャッフィーカー

滋賀トヨタ自動車株式会社・ネットヨタ滋賀株式会社より協賛いただいた広報用車両（ペインティングカー）が、両社のご厚意により、同じく希望が丘文化公園に寄贈されました。

キャッフィーカーは「スポレク滋賀 2008」のキャラバンカーとして平成 20 年 2 月 13 日に上記 2 社より実行委員会に寄贈され、「スポレク滋賀 2008」の宣伝カーとして約 8 ヶ月間、県内一円で大活躍しました。太田由美さん（現代美術画家、東近江市出身）がペインティングされたキャッフィーカーは、道行く人や子どもたちにも大人気で、広報活動の核となりました。この度「ぜひ、記念に今後も活用してほしい。」と協賛 2 社より希望が丘文化公園へ寄贈されました。

